

“この人に学ぶ”

第1回 孔子



全管連 技術参与 小泉智和

会社などを訪問すると玄関ロビーや応接間に社是^{しゃぜ}あるいは社訓^{しゃくん}などが掲出されています。社是は、会社経営の方針や主張を。社訓は、社員（従業員）が守るべき会社の理念や心構えを示します。

そこでよく見かけるのは先人たちの想いや教訓で、今の人達がそれを実現しようとする様々な言葉です。

本シリーズでは、先人たちの想いや教訓を紹介すべく全12回で予定していますが、11人が日本人、唯一外国人の孔子を初回に紹介します。

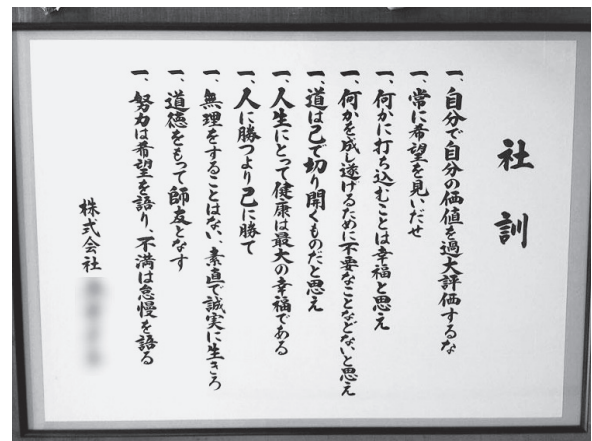
孔子は、紀元前中国の思想家で、その思想は東南アジアの多くの人達に影響を及ぼしています。

現在、中国では、彼の思想の評価は大きく分かれていますが、日本では文明の初期より江戸末期に至るまで受容され、以後も日本人の精神の中に生き続けています。

○孔子の言葉は多く残りますが、そのいくつかを紹介しておきましょう。

- ・仁^{じん}は人なり（仁は人と人との間に生まれた道德で、“人に対する愛”を意味します）
- ・義を見てなさはるは勇なきなり
- ・家では親に孝、外では梯^{てい}（年長者への敬）
- ・徳、孤ならず、必ず隣あり（徳ある者は孤立しない、必ず理解者が現れる）
- ・十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。

六十にして耳順^{したが}う。七十にして心の欲するところに従えども、矩^{のり}を超えず。



○孔子の生涯

孔子は、紀元前552年、魯の国（現山東省）で生まれ、紀元前479年に74歳で亡くなっています。彼の身長は216cm、「長人」と呼ばれたそうです。



孔子像（東京湯島聖堂）

春秋時代の思想家で、幼いときは貧しく育ちますが、成人して権力のある人のもとで政治改革などに取り組み失敗などもあり、その後は諸国を遊説、弟子の教育に心血を注ぎます。

「論語」は、孔子と弟子との問答をまとめたもので、その思想は戦国時代の孟子、荀子に継承され、その後2千年以上、儒教として中国に広がり受け継がれています。

○世界の宗教の中での「儒教」

ところで世界の宗教ですが、かつて、世界の三大宗教はキリスト教、回教（イスラム教）、仏教と教わってきたように思います。しかし今日では、キリスト教（20億人）、イスラム教（16億人）、ヒ

ンズー教（9億人）が三大宗教といわれ、仏教は4番目（4億人）とされています。中国を中心として広がった儒教は7番目（630万人）で、仏教とは一線を画し、現在では中国の一部、朝鮮半島などで信仰されています。

＊人数は推定値

○日本での孔子

奈良時代、仏教は中国から朝鮮半島を経由して伝来しました。遣隋使、遣唐使が派遣され、唐僧鑑真の来日もこの頃のことでした。

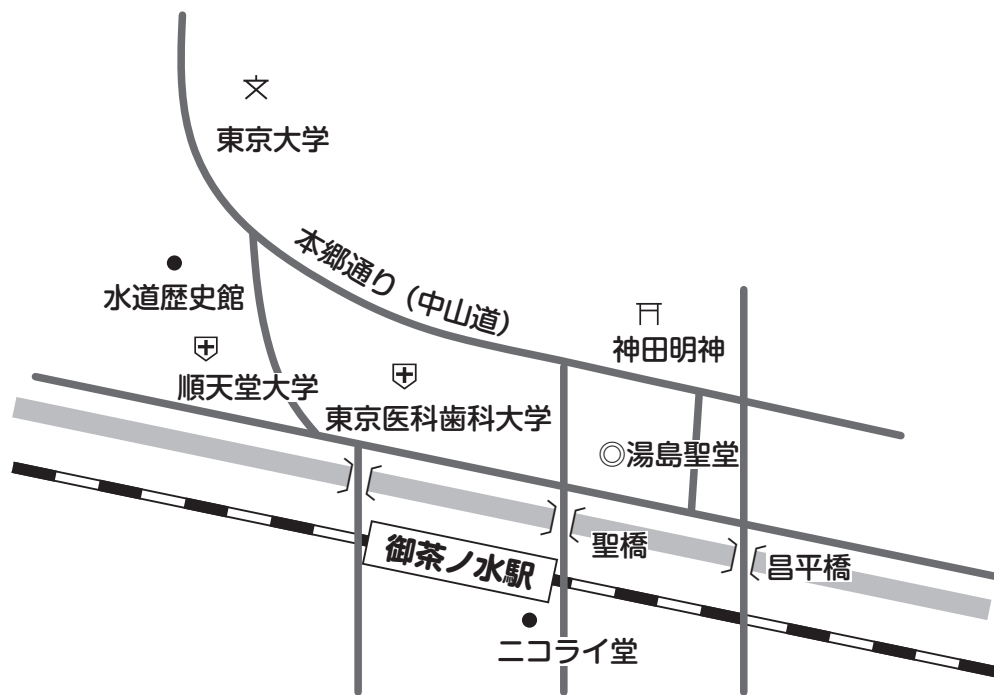
仏教伝来と併せ、中華文化（書籍等）も渡来し、孔子の説く論語なども読まれるようになります。

日本の政治文化が仏教の影響を強く受ける中で、儒教は江戸時代になって政治理念として広く提唱されるようになります。江戸時代の学者として大きな力を持った林羅山や荻生徂徠などは儒教を広め、日本独特の儒教文化を展開させます。

「生類憐みの令」を発した徳川5代將軍綱吉は、儒者の献言などもあって江戸湯島に「大成殿」（孔子廟）を建設、学問の府とし、武士に限らず町人たちにも学問を奨励しました。

家族を中心とした父母兄弟を大切にす
る「忠孝」を軸とした道徳理念や精錬の
思想も広く浸透して、武士道の「忠君思
想」は幕末まで続きます。

なお、幕末には林家の私塾「大成殿」
は見直され、幕府直轄の「昌平坂学問



所」(昌平^{しょうへい}賢)となります(昌平は、孔子が生まれた村の名前です)。

明治の時代、文明開化により、儒教思想は封建的とされ、否定されるようになりますが、西洋の近代思想に対し、日本人の精神性においては根強く支持され、今日に至っています。



大成殿（東京湯島聖堂）

今なお、「修身」と「忠孝」は、人間の精神・人格の形成において孔子が説く「道徳」と同じく実生活に生きています。

(参考資料)

講演記録 「日本における儒教」

牧角悦子

○湯島聖堂周辺ぶらり散歩

孔子を祀る湯島聖堂(孔子廟)は、御茶ノ水駅の前です。すぐ裏は神田明神、少し歩けば東京都水道局の水道歴史館があります。なお、東京医科歯科大学の地は、かつては湯島聖堂の地で、明治となり東京高等師範学校(現筑波大学)と東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)が設置されました。管工事組合の皆さん、その家族の方が東京へ来られたら、小泉がご案内します。

*申し込み：全管連事務局 所要：1～2時間 無料

次回は、大岡越前守を紹介します。